藤　沢　市

かがやく地球

2007年冬号

男女が共に生きる情報紙　VOL.71

共育てで　共に生きる

共育（ともそだ）てという言葉をご存知ですか？

夫婦で共に育て、自分も育つから共育て
今年で17回目を迎えた「共に生きるフォーラムふじさわ2006」
意識をきりかえるヒントをいっぱいもらいました。

もくじ

- 共育（ともそだ）てで　共に生きる
- 共育て意識を広めよう　―講演会のアンケートより―
- 強い親になる、強い子を育てる
- いろいろな働き方、子どもとの接し方があっていい（インタビュー）
- インフォメーション

共育てで 共に生きる

共に生きるフォーラム
ふじさわ2006

講師：蟹瀬 誠一 氏

ニュースキャスター・
国際ジャーナリスト。
2004年度からは明治大学文学部文芸メディア専攻教授に就任。
著書に『4つの資産 成功の黄金法則・僕の場合』（講談社）など多数。

子育てしながら夫婦共に働く……言うは易いが、実際は相当の努力と覚悟がと思ってしまう。まして蟹瀬さんのようなご夫婦とも多忙な方ができたのは何か特別な周囲からの援助があったのかもしれない。そう、その特別なことでもいいから知りたい。などと不遜な気持ちで講演に耳を傾けた。

＊　＊　＊

保育園の空きがなく、保育ママ宅までオムツとミルクを持参し、汚れたオムツと哺乳瓶を持って帰り洗う日々。そのうえ妻の月給と保育代はほぼ同じぐらい。妻は「子どもがかわいい盛りのときにそばにいなくて、稼いだお金はすべて保育のために消えてしまう。一体何のために働いているんだろう」と悩んだが**「自立の為」**に働き続けた。心無い同僚から「早く帰らないと、赤ん坊が泣いてるよ」と言われ泣いていたこともあったが、「男女雇用機会均等法」という法律のお墨付きができて状況が変わった。明確化されることは大事で、法律が変われば社会が変わる。

そのうち、ある保育園に出会い、園長さんに**「共働きはやめて、共育てをしましょう」**と言われ、気持ちの持ち方がガラッと変わった。

「共働き」というのは常に働く方に重点が置かれて「共に働く」ということ。働く方に重点を置くと、子育ては重荷でしかない。子どもがいるために自由に働けない。熱が出る等いろいろなことがあり、いなかったらもっと十分に働ける。だから、働くことを中心に据えると子育てはうまくいかない。

一方の「共育て」。子どもを育てることに重点を置いて、そのために働いている。中心は、いつも「ともに育てる」こと。「共育て」という意識を持っていると、保育園の送り迎えだとかおむつの洗濯だとか、そういうことが辛くなくなる。気持ちの持ち方だ。

また、その保育園で学んだことは**「子育ては一人でやらない」「男も子育てに積極的にかかわる」**ということ。夫婦とも迎えに行けない時は、同じ園の親たちに頼み、逆に自分たちも他の子どもたちを預かったので、自宅ではしょっちゅう4～5人の子どもたちが遊んでいた。息子は28歳になったが、今でもその当時の「お父さんの会」が継続している。育児は育自にも通じ、自分も育つのだから、男性がかかわっていけないはずがないと思う。しかも、子育てというのは期間限定。人生の中で考えると非常に短い期間に、子どもを育てるという、とても辛いときもあるけれども楽しい作業だ。期間限定の、言ってみれば楽しみ。そういうふうにとらえると、男性とか女性とか言う意味がなくなってくる。

結婚したときに夫婦で約束したことは、**「家庭が51%と仕事は49%、この比率を守っていこう」**。もちろん現実は無理。特に若いときは、どうやったって8割9割仕事だけれど、気持ちの中でそう思っていることがとても大事。保育園から「熱が出たので迎えに来て」と言われたときに51%49%、「共育て」と考えていれば迷いなく迎えに行くという選択ができる。でも、現実的にどうしても行けないときには、仲間のネットワークを生かして対応した。

そして、気をつけていたことは、子どもに**「あとでね」「チョットまってね」は無しにしよう**ということ。子どもにとっては「今」が大事。また、一緒にいるときの密度が大事で、時間の長さではない。

それと「子どもを早く大人にしようとしない」ということ。今の子育てというのは、どんどん早く大人にさせよう、そういうふうにしかしていないような気がしてならない。思い返したら子どものころって楽しかった。早く大人になって楽しいことは少ない。そうしたら、子どもの時間は長い方が楽しい。それを自分の子どもにも実践していいと思う。

＊　＊　＊

お話は最初から最後まで面白く、そして要点をついたあっという間の2時間だった。

海外での勤務からスタートした蟹瀬さんは妻が働くということに何の抵抗もなく自然に受け入れることができ、妻の給料が自分より多い時も、感謝し、助かったと感じたとのこと。この認識は長年、生活を協力し合う上で大事なことだと思う。

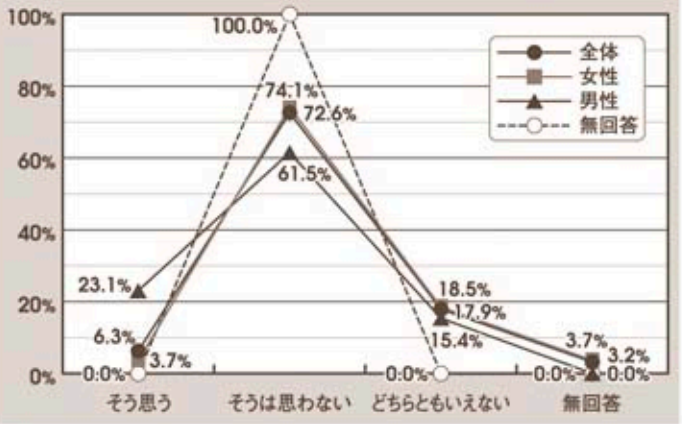
そして結論として得たことは、共に働くことへの固い理念があり、その為の心構えと覚悟がスタート時点からしっかりできていたことだと思った。

（井戸　記）

共育て意識を広めよう 講演会のアンケートより

講演会後に集められたアンケート結果（参加者149名、アンケート回答95名：内女性82名、男性12名、性別無回答1名）から、男女平等について、育児の分担（共に育てるという意識）についてどのようなことが読み取れるか考えてみたい。

Q1 今の世の中は男女平等になっていると思いますか？

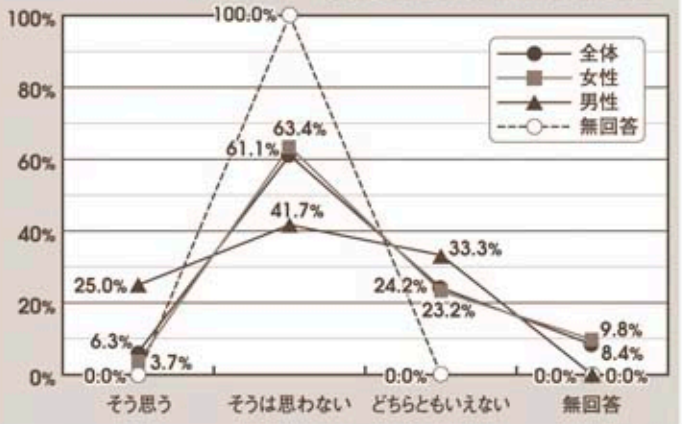


A1 この問いに対して全体で72.6%の人が「そうは思わない」と回答している。これは、「そう思う」と答えた6.3%、「どちらともいえない」と答えた17.9%を大きく上回る数字である（グラフ参照）。この傾向は、40代から60代に当てはまり、70代以上では、「そう思う」が、33.3%と他の年代に比べとても高く、さらに、20代で「どちらともいえない」が33.3%、30代では71.4%と著しく他の年代より高い傾向にあった。

また、男女平等になっていないと考える理由については、「機会均等という言葉だけで、平等になっていない」・「企業の中で女性の管理職への登用が少ない」（40代・女性）、「賃金格差もある」・「女性の総理大臣がいない」（50代・女性）等、現実の状況が指摘されている一方で、「安い労働力確保のために主婦をパート労働にかき立てて、社会参加というのは疑問」（40代・女性）というような問題についての意見もあった。

「不平等が当たり前と思っていた」（40代・女性）という主婦の意見は、ある意味で、長い歴史の因習を打ち破ることの難しさを語っていると思われる。

Q2 「男は仕事、女は家庭」という考え方で共育てができるでしょうか？



A2 この問いに対しては、「そうは思わない」と答えた割合が61.1%、「そう思う」と答えた人の6.3%を大幅に上回った。

また、年齢分布をみてみると70代以上では、「そう思う」と答えた人が50.0%と他の年代より多く、また逆に30代では、「どちらともいえない」が71.4%、「そうは思わない」が28.6%と総数の結果と逆転している。これは、30代が子育て真最中の年代で、現実にさまざまな問題に直面していることを示していると考えられる。また、20代男性において、すべての人が「どちらともいえない」と答えたのを考えると、30代より若い年代を中心に育児分担に対して何らかの意識変化が読み取れる。

アンケートの感想に印象に残ったものがあった。70代の女性が書かれたもので、「共育てで共に生きるという精神を私自身若いときに経験していれば、わが子をもっと自由に育てることができたろうと思った」というものだ。

男女平等ではないと感じつつ何もできないのではなく、一人ひとりが自分の子育てを通じて、平等についての考えを次世代に伝えていくことが大切だと思った。

講演会が行われた土曜日の午前中、子どもの通う小学校で、PTA主催の"まつり"があった。学年ごとに趣向をこらしたブースを大勢のお母さんたちが運営していて、当然、そこにはお父さんの入り込む余地はなく、校庭のすみっこに所在なげにたたずむ姿をほんとうに、ぽつりぽつりと見かける程度だった。

そんな中に活気にあふれたお父さんたちの集団が、焼きそばと綿菓子のお店を出していた。聞くと、12年前にお母さんたち中心のPTAに対して、お父さんたちの活動の場を作ろうとしたのがはじまりで、代を重ね、現在は学童保育に通う子のお父さんたちが中心の会となって活動している。子育てを通じてできた父親たちの楽しそうな横のつながりを見て、気づかないうちに共育てを実践できているのをうらやましく思った。育児は育自だと蟹瀬氏は言う。とすれば、心豊かな家庭の中で夫婦共育てをすることによって自分の人生も実り豊かなものになるだろう。夫婦ともに育てる「共育て」という考え方が広まってほしい。

（川辺　記）

強い親になる、強い子を育てる

昨年、いじめによる自殺が全国で次々と起こり、私たちの多くがテレビや新聞報道で胸を痛めた。もしも自分の子どもがいじめにあったら、子どもを守れるのだろうか？　どうしたらいじめをなくすことができるのだろうか？　そんな気持ちに応えてくれるかのように、蟹瀬さんは講演中、自身の経験からこんな言葉を口にされた。

「いじめはいつの世も無くなることはないでしょう。それより私たち親にとって大事なのは、これをなくそうということよりも、こんなことに負けない強い子ども、そしていじめられている子どもを助けるような勇気を持った子どもを育てる、そちらに力点を置いた方がいいのではないか」

蟹瀬さんのお子さんは帰国子女で、いじめられた経験がある。その時、ご夫妻のとった行動は「逃れる（環境を変える）」ことだった。学校を転校させてからは、お子さんはまた以前と同じように明るく元気な男の子にもどったそうだ。

また、蟹瀬さんの友人は、自分の子どもをいじめた相手に直接対決したという。「親がいじめっ子と直接やりあったって、僕は当然やってもいいと思っていますよ」。

その話を聞くうち、私自身の経験がよみがえってきた。小学生時代の私は、今考えるといじめられる要素満載の子どもだった。身体が弱くて体育の授業はしょっちゅう見学、おまけに動作も遅いし、目も悪くて牛乳瓶の底みたいなメガネをかけてるし、算数のテストは常にクラスで最下位争い、とどめは忘れ物の女王だった。それなのにいじめられたことは一度もない。体育は堂々と見学していたし、メガネのことをからかわれたら、数倍ぐらい言い返していた。さらに先生方はこぞって「キミは体育や算数はだめだけど、国語と音楽ができるからいいんだよ。忘れ物は多いけど、みんなを楽しませる力があるからいいんだよ」と褒め育ててくれたから、私はこれでいいんだ、と実感できていたのだと思う。

ところが中学に入ると状況は一変した。声が大きい者、力の強い者が全てのような社会がそこにはあった。中でも最悪なのは、学校で一番体育教師がいばっていたということだ。体育ができない生徒は根性がない怠け者だ、という風潮が当たり前のようにまかり通っていた。相変わらず私はしょっちゅう病気をしていたので、常日頃から体育教師からしてみれば"駄目なやつ"であり、私の両親のことは"過保護で駄目な親"だったのだろう。何かと目をつけられることが多かった。

ある夏の日、体育の授業は水泳だった。私は走るのは苦手なものの、泳ぐことは大好きだったのだが、その日は微熱があったのでプールサイドで見学をしていた。しかし、運悪くその日は見学者が私のほかにもたくさんいた。それを見た体育教師は激怒し、一人ずつ見学の理由を発表させた。私の番になった。微熱があることを口にすると教師は「怠け者！お前はもう、学校へ来るな！」と皆の前で怒鳴ったのだ。これには驚いた。家に帰り、母にそのことを言った。

すると母はいきなり校長室に怒鳴り込んでいったのだ。「うちの子は怠け者じゃない！」

今度は体育教師本人が私の家にやってきて、母とやりあっているのが見えた。それ以来私は怠け者といわれることはなくなったのだが、私は子ども心に「お母さん、何もそこまでやらなくても……」と思った。しかし今自分も子どもを産み、育ててみると母の気持ちがよくわかるし、きっと私も同じことをするだろう。義父母の介護と子育てと家業を一気にひきうけていた母。父は家のことをすべて母にまかせきりだった。それでも母はいつも私たちと共に戦う姿を見せてくれていた。「でもお母さんは最初から強かったわけじゃない。結婚して、子どもを産んで、辛いこと、大変なことをいっぱい経験して強くなったんだよ。あなたもこれからもっと、もっと強くなりなさい」

蟹瀬さんのおっしゃるように、いじめはいつの時代もなくならない。だからこそ、いじめに負けない子どもを育てよう、と私も思う。それにはまず私がもっと、もっと強くならなければ。

こんなに私たち自身を育ててくれる"育児"という経験を、多くの男性が母親だけのものにしているとしたら……。あー、もったいない！　これ以上の"宝の持ち腐れ"は他にあるのだろうか？

（中村　記）

インタビュー

いろいろな働き方、子どもとの接し方があっていい

講演のなかで「共育て」という言葉を提示して下さった蟹瀬さん。まだまだお話を伺いたいという編集員の要望を快諾いただき、インタビューさせていただきました。

今、ワークライフバランスということが、さかんに言われていますが、蟹瀬さんはずっと前から、ごく自然に実践されてきたのですね。秘訣はなんでしょうか。

蟹瀬 仕事と子育てとか、仕事と家庭とか、どっちかを選択しなければいけないような、二者択一の発想はやめた方がいいと思いますね。子育ても、仕事も、家庭もみんな大事で、ワークライフバランスは、どうやってそこにバランスをとっていくかということです。

僕は仕事49%、家庭51%と言いましたが、画一的に決めないことも大事だと思います。自分の家庭や自分の性分にあったバランスが大事ではないでしょうか。共通のルールを我々は求めがちなんですが、そうなるとムリが出てきますから。

講演のなかで「育児は育自」というお話が出てきました。まさに子どもを育てることは、自分自身を成長させることにつながると思います。でも、そのことが男性にはあまり知られていないのが残念です。

蟹瀬 やると楽しいですよね。子育ては期間限定だし、その間にしかできない人生の楽しみです。そのことを、もっとたくさんの日本人の男性が知ってもいいのではないかと思います。

僕の知り合いのアメリカの大手保険会社の重役は、自宅の仕事部屋は子ども部屋なんです。子どもの宿題をみながら仕事をしている。発想を変えれば、いろいろな働き方や子どもの接し方があると思います。

法律が整備され、育児休暇や短時間勤務などの制度を利用して、子どもを産んでも辞めずに仕事を続ける女性が増えています。けれど残念ながら男性の取得率が低い点についてどう思われますか。

蟹瀬 育児休暇をとることによって、将来自分の昇進にかかわるとか、会社での立場が悪くなるのではないか、という不安感が先立っているように思います。ヨーロッパや北欧では、男性が育児休暇をとらないことが、ニュースになるのです。日本の場合はとったことがニュースになるほど、珍しい。

でもきっと、ある時点で急にみんな取得すると思います。変わるときはじわじわ変わるのではなく、急激に加速度的に変わるものですから。そのポイントをどうやって早くもって来れるかでしょうね。

ところで、蟹瀬さんは明治大学で教鞭をとっていらっしゃいますが、何を教えているのですか。

蟹瀬 主にジャーナリズムですが、それだけではなく、テキスト研究という授業では、憲法を読ませています。日本の基本ルールである憲法がちゃんと読めなかったら、日本で生きていくのは大変だろうと思うのです。法律の勉強としてではなく、この文言はどういうことを意味していて、現実の問題とこのようにかかわっているということを、学生に学んでもらいたいと思っています。

その授業での学生の反応はいかがですか。

蟹瀬 意外にしっかりと考えてくれます。ちゃんと刺激すれば、ちゃんと返ってくるものです。

若い人たちには、自由とは何なの？ という根源的なことを、じっくり考えることがあった方がいいと思うのです。フランスでは、高校から大学にいくときに、共通試験があって理系も文系も関係なく哲学の試験があります。そこで自由とは何かと問われて、3時間かけて答える。

例えば、「何で人を殺してはいけないのですか」という問いに対して考えます。殺すことも自由だけど、それが本当の自由かどうか。そういう自由があったときに、相手も自分を殺すことができる。そうなると恐ろしい世界になります。それでは安心して生きていけないから、ルールを決めて話しあって、社会ができている。

本当の自由はものすごく束縛された自由です。自分の自由を担保するためには、人の自由も認めないといけない。そういうことが、議論しているうちにわかってくる。こういう教育を日本でもやった方がいいと思いますね。

（松永　記）

インフォメーション

公民館の主な催し

問合せ・申込みは各公民館へ

子育て講演会　片瀬公民館 ☎27-2711

■テーマ：「社会力を育てる」
■講　師：筑波学院大学学長　門脇厚司 氏
■日　時：2/26(月) 10:00～12:00
■対　象：市民一般　■申込み：当日来館(申込み不要)

表情筋トレーニング～豊かな表情でいきいきと～　遠藤公民館 ☎87-3009

■内　容：張りのある肌、好感もたれる表情づくりを目指して、楽しみながら顔の筋肉トレーニングをしましょう。
■日　時：3/8、15(木) 全2回 10:00～11:30
■対　象：成人 20名　■申込み：2/8(木)から電話または来館

良い映画を見る会　明治公民館 ☎34-3444

■内　容：「古都」の上映(川端康成原作 山口百恵主演作品)
■日　時：3/14(水) 14:00～16:00
■対　象：市民一般 100名　■申込み：当日来館(申込み不要)
*工事中のためお車でのお越しはご遠慮ください。

男女共生セミナー①　藤沢公民館 ☎22-0019

■内　容：妻と夫の定年塾
■講　師：作家・定年塾主宰　西田小夜子 氏
■日　時：3/24(土) 13:30～15:30
■対　象：市民一般 40名
■申込み：2/13(火)から電話または来館

男女共生セミナー②　藤沢公民館 ☎22-0019

■内　容：男性更年期への理解とそのサポート
■講　師：聖マリアンナ医科大学　岩本晃明 氏
■日　時：3/27(火) 14:00～16:00
■対　象：市民一般 40名
■申込み：2/13(火)から電話または来館

かがやけ地球は市民の編集員さんの企画・運営によって、年4回発行しています。
編集スタッフ：井戸 君江・川辺 裕子・中村 博子・松永 美佐寿

労働会館の講座

申込み・問合せ ☎26-7811

就職支援セミナー

■内　容：就職のプロセス、適職選択、応募書類の書き方、面接対策ほか
■日　時：3/6(火)
① 正社員希望者対象……13:00～17:00
② パート・アルバイト希望者対象……10:00～12:00
■対　象：市内在住または在勤で就職・転職を希望する方、各36人
■申込み：広報ふじさわ各月10日号に掲載

就職支援個別カウンセリング

■内　容：就労に向けた相談に個別にアドバイスします。
■日　時：2/15、22・3/1、8、15(全木曜日)
各月最終日は13:00～18:45、
それ以外の日は10:00～16:45　一人1時間程度
■対　象：市内在住または在勤で就職・転職を希望する方、各5人
■申込み：広報ふじさわ各月10日号に掲載

かながわ女性センターの主な催し

申込み・問合せ：県立かながわ女性センター　参画推進部
☎27-2118　FAX 25-6499　E-mail：sankaku@cityfujisawa.ne.jp

就労環境改善講座(藤沢市・商工会議所共催事業)「女性を活かして業績UP↑！～コーチングの手法を用いて～」

■内　容：女性の能力を十分に活かすことにより社員・企業にとってプラスにしていくために重要な、コミュニケーションのとり方などについてコーチングの手法を使って学ぶ
■日　時：3/7(水) 10:00～17:00　■参加費：無料
■会　場：藤沢市役所　防災センター6階　第1会議室
■対象・定員：女性を部下、同僚に持つ管理職等 30人
■申込み：申込み制　3/1(木)までに電話・FAX・Eメールにて

女性起業家支援講座「あなたを応援！労働・社会保険の基礎知識」

■内　容：起業時に知っておいた方が良い労働・社会保険や各種補助金、また労働基準法のうち関係する項目についての講義
■日　時：3/9(金) 13:00～16:00　■参加費：無料
■会　場：県立かながわ女性センター
■対象・定員：現在起業中または起業を目指す女性 30人
■申込み：申込み制　3/3(土)までに電話・FAX・Eメールにて

Grand Hotel SHONAN*

All for the Guest.
すべては、お客様のために…

ご予約／お問い合わせは
☎0466-22-1311
http://www.shonanhmg.co.jp/fujisawa
〒251-0054 神奈川県藤沢市朝日町11番地

inamotoya.com
いなもとや
Eco-Friendly Universal Japanese Basic

アクティブミセスからシニアまでの快適生活をサポートする
ユニバーサルファッション・ショップ
オシャレで、着心地の良い服を豊富に取り揃え、皆様のご来店お待ちしております。
日経流通新聞、暮らしの手帖、テレビ朝日などの掲載店
藤沢さいか屋2F・JR藤沢駅北口すぐ　TEL & FAX 0466-22-3109

藤沢・茅ヶ崎・寒川 "湘南"がエリアのFM放送局
83.1MHz ラジオ湘南
http://www.radioshonan.co.jp
STUDIO FAX No.0466-29-2121

発行／2007年1月　藤沢市企画部男女共同参画課　〒251-8601 藤沢市朝日町1番地の1　0466-50-3501（直通）
URL：http://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/danjyo/-k/　E-mail：danjyo@city.fujisawa.kanagawa.jp